

ディフェンス(グループ戦術)のキーファクター

グループ	No.	キーファクター	留意点
①	0	「ディフェンス(個人戦術)」のキーファクターを習得しておく	「ディフェンス(個人戦術)」のキーファクターはすべて「ディフェンス(グループ戦術)」でも必要となる。
①	1	予測・連動・ワンサイドカット	ファーストディフェンダーは相手のプレーを限定して後方の選手が予測をたてられるようにし、後方の選手はボール保持者の状況によって次のプレーを予測するようにする。
	2	チャレンジ&カバー	カバーする選手は、目の前の味方が抜かれた時と、自分がマークする相手にボールが出た時の両方に備える。 ★ヘディング処理時の対応もトレーニングする。
	3	逆サイドからのスライド・空いたスペースを埋める	状況を問わずいつも自分のポジションにいたり特定の選手をマークしたりするのではなく、「ボールを奪い攻撃をするため」「失点の確率を下げるため」のディフェンスであることを認識する。
②	4	数的優位を作る	ディフェンディングサードで1対1の危険な状況を作らない。 ★基本的に「相手の人数+1人」を作る。1人の相手に対し2~3人多い状況を作るとその場では有利になるかもしれないが、万が一ボールを奪えなかったときに別のところが数的不利になりやすい。
	5	数的優位・同位・不利での守備	数的優位：ワンサイドカットを活用してボールを奪う。 数的同位・不利：1対1で奪い切る・ゴールから遠ざける・攻撃を遅らせて味方が戻る時間を作る。 ※場所・状況で使い分ける。
③	6	ゾーンマーク(マークの受け渡し)	フォーメーションや守備のバランスを崩さないようコミュニケーションをとってマークを受け渡す。
	7	マンマーク	相手セットプレー時やエリア内でのクロス対応などマークの受け渡しが難しい状況ではマンマークで守る。
④	8	ライン間の距離	それぞれのライン同士は、 ・ライン間でボールを受けさせない ・ライン間でボールを受けた選手に前を向かせない ・すぐプレスバックに行ける という距離を保つ。 また、前後のラインが重なって1列になってしまわないようにする。
	9	ラインを揃える(ラインコントロール)	オフサイドを奪いやすくする。 相手がどこから攻めてきても守備のバランスがとれるようにする。 相手ボール保持者の状況や能力、ボールの動きに合わせてラインの高さを変える。 GKのプレーエリアや最終ラインの選手の背後への対応力に応じて、「これ以上下げない」というラインを設定する。

ディフェンス(グループ戦術)のキーファクター

グループ	No.	キーファクター	留意点
⑤	10	セットプレー	①スローイン ②コーナーキック ③フリーキック(近距離) ④クイックリスタート ⑤ゴールキック ⑥フリーキック(遠距離) ⑦キックオフ ⑧フリーキック(エリア内間接) ⑨PK